

令和5年度第1回宮崎県スポーツ推進審議会 議事録

I 日程等

- 1 日 時：令和5年7月6日（木）
- 2 会 場：県庁本館講堂
- 3 出席委員：春山委員、高木委員、木下委員、金川委員、内村委員、那須委員、古川委員、長尾委員、玉城委員、竹元委員、松田委員、鶴田委員、遠坂委員、西田委員（14名）

II 概要

- 1 副教育長あいさつ
- 2 辞令交付
那須委員、長尾委員への辞令交付
- 3 委員紹介
各委員より自己紹介
- 4 会長（議長）・副会長選出
会長：春山委員、副会長：古川委員
- 5 議事
(1) 説明
ア 令和5年度宮崎県スポーツ推進審議会計画について
イ 令和5年度スポーツ関係団体への補助金について

ア、イについて、事務局より説明

発言者	発言内容
議長	○ 事務局の説明について、質問等がないか。
委員	○ 高等学校野球連盟の中のパフォーマンスアップ支援事業について教えてほしい。
事務局	○ 鹿屋体育大学の先生にお願いし、昨年まで実施していた事業である。動作分析を行い、アドバイスをいただきながら競技力を向上させていくような内容である。
委員	○ 全国強豪校挑戦事業の内容を教えてほしい。
事務局	○ 県大会の上位のチーム2校を関西の強豪チームに遠征する際の補助である。強化試合を行いつつ、甲子園に行ったときと同じ宿舎に泊まり同じような生活を送る。
委員	○ 他のスポーツ団体には同様の補助はないのか。
事務局	○ 資料にあるものは教育委員会の補助金であり、全体が見えない形になっている。競技力向上については、今年度か

	<p>ら総合政策部競技力向上推進課へ移管し、そちらで強化を図っていくことになっている。</p> <p>○ 他の競技団体への支援についても、宮崎県スポーツ協会を通じて強化支援をしている。少年種別では、競技力強化指定校として高体連をとおして活動費等の支援をしている。また、国スポに向けターゲットエイジを育てる事業も進めているところである。</p>
委員	<p>○ 部活動改革推進事業の部活動指導員配置事業について、現状として各市町村でどのくらいの部活動指導員が配置されているのか。</p>
事務局	<p>○ 昨年度が県内64名を配置している。本年度は136名を目指して配置を進めているところである。</p>

(2) 説明

ア 宮崎県スポーツ推進計画について

イ 施策10『幅広い世代でのスポーツの推進』について

ウ 施策11『児童生徒の健やかな体を育む体力・健康づくりの推進』について

ア、イ、ウについて、事務局より説明

発言者	発言内容
議長	○ 事務局の説明について、質問等がないか。
委員	○ 特になし。

(3) 協議

ア スポーツ推進計画の推進指標達成に向けた取組について

発言者	発言内容
議長	○ スポーツ推進計画を進めるに当たり、御意見、御助言をお願いしたい。意見のある方は挙手にてお願いしたい。
委員	<p>○ 施策10の幅広い世代でのスポーツの推進については、現状として総合型地域スポーツクラブが32クラブあり、そのうち日本スポーツ協会に登録している総合型地域スポーツクラブは22クラブである。</p> <p>○ 県から登録している総合型地域スポーツクラブに様々な支援をしていただいている。まずは、登録している22クラブの活動を充実させれば、残りの10クラブも入ってくるのではないかと話をしている。入れようとするのではなく、まずは自分たちの総合型地域スポーツクラブが充実するように推進していけば自ずと登録するのではないかと考えている。</p> <p>○ 市町村レベルでどのくらい総合型地域スポーツクラブを支援してくれるか、どれだけ連携できるかでかなり変わってくる。施策にも書かれてあるとおり、市町村との連携は</p>

	<p>大切に、総合型地域スポーツクラブ側からも市町村と連携していきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の地域移行についても総合型地域スポーツクラブの中で、できる限り市町村又は学校レベルで協力していこうとお願いしている。 ○ 障がい者を対象としたスポーツについて、教室を開いているところは現状として3クラブくらいしかない。私のクラブも昨年度、月に1回、年5回くらい教室を開いて実施した。非常に参加者の皆さんが喜んで、今年もリクエストがきている。こういったことを続けていくと全国障害者スポーツ大会にもつながっていくのではないかと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 私自身も市町村と連携してやりたいとは思っているがなかなかできていない。 ○ 県が進めているSALKOなど、どのくらいダウンロード数がある、どのくらいの人活用しているか気になった。また、補助金一覧についても教育委員会だけでなく他の関係機関についても知りたい。 ○ 部活動の完全地域移行を100%としたとき、順調に進んでいるのか、思うように進んでいないのか、今の現状は何%くらいなのか気になるところである。 ○ 施策11取組1-3に運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活と書かれてあるところに、ぜひ勉強も入れてほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共生社会の実現に向けたスポーツの推進ということで、4年後の全国障害者スポーツ大会に向けて今、機運が高まりつつある。県の障がい福祉課の事業を通しながら、宮崎県障がい者スポーツ協会も事業を進めている。4年後に向けて選手を育成していったり競技力を高めていったり普及をしていったりすることは大事になるが、共生社会に向けて問題は、それ以降をどうつなげていくのかである。 ○ 昨年度から宮崎県障がい者スポーツ協会一般競技団体と障がい者の方、健常者の方を交えた共生スポーツ大会を実施している。障がい者の方も健常者の方もどうかかわっていけばいいのか分からなかったが、実際やってみると、そんなに難しい問題でなかった。壁を自分たちで作っていただけで、その壁は意外と難しいものではない。共生スポーツをこれから広げていくには一般の競技団体との連携を十分深めていかないといけないと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本学では障がい者スポーツ指導員初級が取得できる。障がいのある人だけのスポーツももちろんあるが、アダプテッドスポーツといって誰でも参加できるものもある。車椅子の方は車椅子を使えば参加できる、ブラインドバレーボ

委員	<p>ールもアイマスクをつければ参加できるということで、実際に学生相手に実施すると、こんなスポーツがあるんだと喜んでいて。そういったことを学んでいって将来に生かしていくことが必要である。障がいの有無にかかわらずというよりはアダプテッドスポーツ、誰でも参加できるということをもっと強調していくべきかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 共生社会の実現の取組2-3のところ、誰もが身近な地域で参加できるスポーツ教室の開催に関する取組を推進しますとあるが、どこが主体かというところを具体的にさせていただくとよい。 ○ 障がい者スポーツの用具整備や道具をそろえるのにお金がかかる。工夫して現在ある道具をどう活用するのか、低いネットの張り方であったり、道具を工夫して作成したりすることも大事で、そういったことの情報発信の場も必要である。また、どこに行ったら貸してもらえるのかといった一般の方に向けた情報発信も大切である。 ○ 施策11健康教育・食育の推進に肥満や偏食があるが、今は若年層のやせの問題もある。20歳代だと今後子供を産んでいく段階での問題、将来の不妊の問題など、健康問題には非常に重要な意味がでてくる。肥満だけ出なくてやせを含めた偏食というようにした方がよいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ SALKOをダウンロードしてみたが、アプリの場合、使い方が分からない人が一定数いると思う。続けていくことは大変重要なので、国体へ向けて拡大するなど、続けられる取組のアピールがあるとよい。 ○ スポーツと栄養を考える上で、プロを目指す人の食事と一般の人とは違う。トップを目指すとなるとサプリメントであったり基礎的なところの知識であったりが必要となる。支援の仕方を考えた上で強化していかないと残り4年しかないので、何かしっかりとサポートしていったほうがよい。 ○ やせの問題は、怪我も問題で、レジスタンス運動などをしたほうがよい。その辺も含めて続けられるものを推進することを希望する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ レクリエーションの基本は、「誰でも」、「いつでも」、「どこでも」、「すがすがしく」、「楽しく」が基本となっている。 ○ 体力増進のための器具ということで、他県から宮崎に引っ越して来られた方から、器具はどこで借りられますかと問合せがあった。手続きが面倒だったようで、他県ではどこの体育館にもあって、いつでもだれでも使えるということをおっしゃられて帰られた。経費的に大変だけれども、

	<p>市町村とも協議しながらそういった場所がこれからできたらいいと思っている。高齢になっても子供でもみんなで使えるものがこれから先には必要だと思う。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 幼児期の教育では、環境を構成して子供の遊びが豊かになることを目指している。外遊び、できるだけ自然に体を動かすことができるよう、年齢による簡単なルールのある遊びをさせている。そのなかで子供たちが多少の勝ち負けを経験しながら、大人に寄り添ってもらい少しずつ次の勝ち負けが分かる場所に進んでいってほしいと思って取り組んでいる。 ○ 子供の数が少なくなり、保護者の就労も進んでいるが、生活が豊かなことと子供の健康健全に育つという両立はなかなか簡単なことではない。夜中遅くまで仕事をすると寝る時間が遅くなり、子供は眠りが足りない朝イライラしてしまい、眠りの大切さを感じているところである。子供が早く寝て、自分で目が覚めて、おなかがすいて、動き出すというリズムを作っていくということを社会全体で見守っていくことが大切だと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子供たちの運動に関わらせてもらっているが、雨の時に外で遊べる施設がない。のぼる、くぐる、ぶらさがる等、いろいろな動作について発育発達の部分で劣ってくるのではないかと感じている。 ○ ろくぼくが小学校の体育館にあると思うが、その一部にボルタリングなどを入れてみるなど、子供たちが興味を持ちそうなものを取り入れると運動が楽しいという方向に行くのではないか。 ○ 競技力強化の体づくりについては、サプリ等も大事だと思う。指定強化校などにサプリなどの補助というのも一つの方法ではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校段階では運動に親しむ観点で遊具を活用する。小学校の体育指導者にも県のスポーツ推進計画を周知するとよい。 ○ 勝利至上主義、勝ち負けにこだわることも大事だが、小学校の段階であまりにもこだわりすぎると、経験上からも中学校、高校で伸びないことが十分に考えられる。先を見据えた発達の段階、運動能力に応じた指導が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 競技力向上について取組4-2選手の発掘・育成について、ピンポイントで世代を強化することは大事なことである。 ○ 強化費が今、競技団体の方へいっている。以前は中・高校生の強化費は、中体連・高体連を通じて強化ができるような仕組みがあった。以前はトップアスリート育成事業で

	<p>中体連と高体連6年間のスパンで合同合宿や練習ができていたので、中体連と高体連の専門部が強固に結びついて選手を見ることできていた。今後、中体連・高体連に対する強化費というものも検討していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 部活動の地域移行について、今のところ各市町村単位でモデル校を設置したり、それに向けての協議会を設置したりしている段階である。 ○ 現在、県に約1,200の部活があり、外部指導者として登録されている方が約400名、計算上約800名の人材が必要となる。総合型地域スポーツクラブの方々や少年団の方々、地域の保護者などいろんな方々に協力をいただかないと完全なる地域移行というのは不可能な状況である。現実的には不足する人材については学校の教員が持たざるを得ない。そうすると真の働き方改革にはつながらないので、学校の部活動も同時に改革していかないといけない。地域移行だけでいくと人材不足のためうまくいかないことから、学校での改革も必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分自身もスポーツ指導者をしてながら選手と子育てをしている。これまで県の女性アスリート支援に助けられた。選手として小さい子供を連れて大会に参加しながら、夫も宿泊できる支援があり助かった。そのような生活であったが、子供たちも幼い頃からずっと競技を続けられて、そういった環境を与えてもらったことに感謝している。今、指導している子たちも自分自身のように指導者を目指し、同じ思いを持って次を育ててくれるといいと思っている。 ○ 4年後の国スポを見据えて、子供たちは2種目、3種目行っている状況もある。自分の適性は何なのかということ携わってくれている指導者が道を拓いてくれるような体制ができるといい。ワールドアスリートプロジェクトのように自分の適正を生かした競技へ挑戦するということができるといいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予算の運用の工夫ができるといい。強豪校のところへ出向くだけでなく、相手を宮崎に呼んでくる予算があるといい。宮崎に来ていただき、観光の面にもつながってくるのではないか。指導力の向上、競技力の向上、体力の向上、推進面、トレーナー、食育も含めて選手強化をしないといけないことを考えたときに、さまざまな運用ができるとうい。 ○ 選手強化についても、小・中・高、スポーツクラブの連携がないと高校での活躍も期待できない。各競技団体と関わりながら連携を深めていき、県内の高校で強化できるようになるといい。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光の観点から、県のスポーツランド推進室とスポーツ関係の皆様と連携しながらアマチュアスポーツの大会や新たな合宿の誘致に取り組んでいる。 ○ 施策10取組3-1スポーツによる地域経済の活性化について、スポーツツーリズム、アマチュアスポーツの合宿の支援をおこなっている。スポーツツーリズムについては、見るスポーツ、するスポーツで訪れた来県者の方々を他の観光行動へつなげて楽しんでいただくという考え方で、ゴルフは最近また人気が高まりつつあり、国内ゴルフ利用者の数は増加している。サーフィンは、移住者も多くなってきていると聞く。全国規模の大会も実施されるなど熱が高まってきている。サイクリングも令和3年度に5つのコースを設定した。国内の交通機関と連携して旅行商品を作ったりサイクリングのイベントを行ったり、県内外からお客さんをお呼びしている。 ○ アマチュアスポーツの合宿支援については、平成2年から県内の団体も対象としている。10泊以上で1人1泊1000円、上限10万円助成がある。合宿に来る保護者も対象となっている。 ○ 観光協会は地域の活性化につながることで県民の皆様と一緒に参加してもらうことでスポーツの推進の一躍を担うことができると考えている。
議長	○ 貴重な御意見ありがとうございました。

6 閉会